令和4年~ 令和5年

園・学校全体でどのような工夫ができるのか



社会情勢は様々な対応を求められることが続いていましたが、目的や目指す方向を確認の上、 実現可能な形や互恵性のある教育活動や取組、人が代わっても変わらない体制づくりについて 3つの視点をもって推進することとしました。

R4 全市学習会資料より

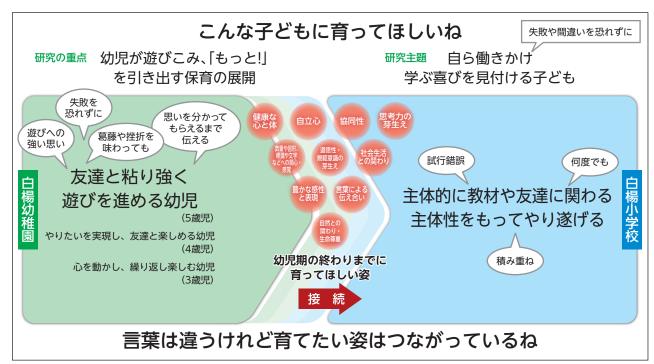
R4の取組 視点1 活動 幼児・児童の連携交流活動の在り方 指導 視点2 発達や学びの連続性を踏まえた指導の在り方 視点3 体制 カリキュラム・マネジメントのための園・学校の体制の在り方 考えられる効果 幼小の教職員が幼児・児童の発達の段階を理解し、それに応じた経験 や学びを共に考え、工夫・改善することで、自身、自園、自校の実践 力を高めることができる。 円滑な接続に つながる 幼小の教職員及び園・校の実践力の向上により、幼児・児童の学びの 質が高まる。

1 目指す子どもの姿を共有しよう

活動 指導 体制

取組を始めるにあたり、自園・自校の子どもたちのよさと育てたいところを改めて共有しました。互いの研究主題や研究の重点を窓口に子どもの姿を話すことで、使っている言葉は違うけれど、ねらいは共通していると分かりました。

また育ちや教育のつながりが見え、取組の振り返りは常にここに立ち返ることを確認しました。



R4 全市学習会資料より